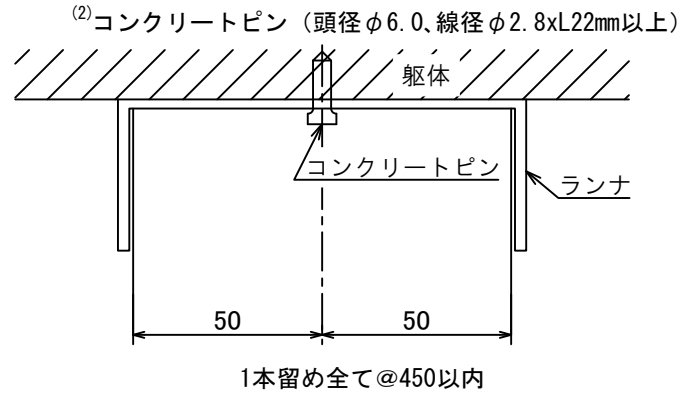
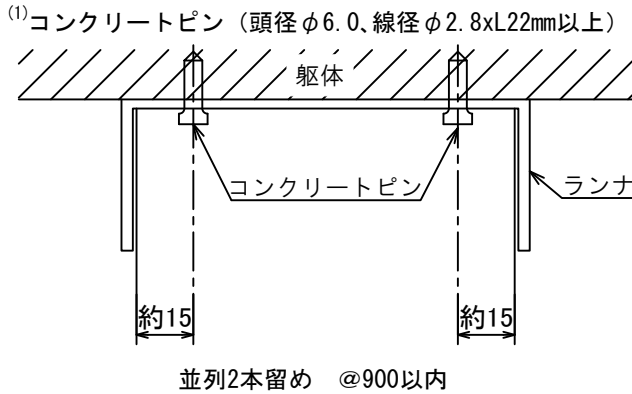


強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

①上下ランナの固定

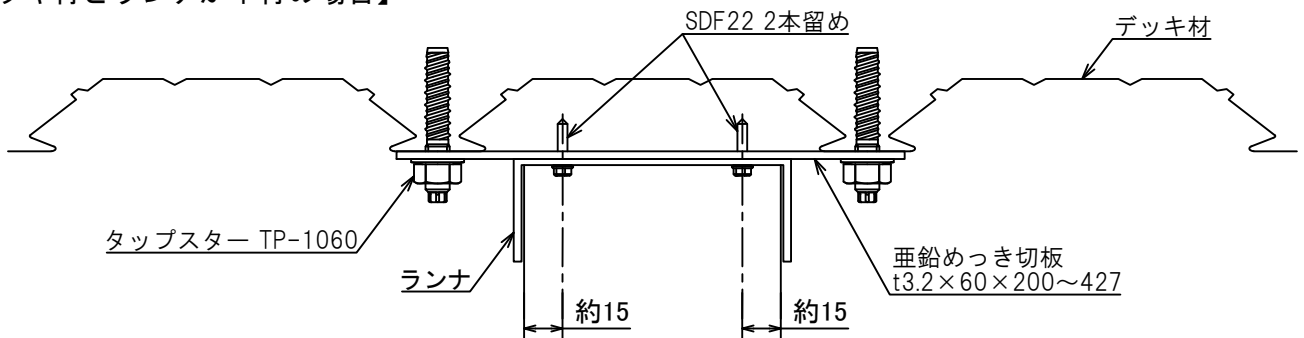
上下とも躯体がコンクリート造りの場合は、⁽¹⁾コンクリートピン並列2本留め900mm間隔又は⁽²⁾1本留め450mm間隔で確実にランナ（ランナについては2/5の基本仕様を参照のこと）を固定する。



※別紙許容高さ表にあるコンクリートピンの留め間隔が@450よりも小さい数値の場合は、その数値以内で留める。

上側がデッキ材の場合、ランナの取付方向がデッキ材と並行で凹面にあるときは、t3.2×60×200～427の垂鉛めっき切板を900mm間隔でタップスターT-1060（ねじ固定式アンカー）で切板の両側を固定する。ランナを垂鉛めっき切板に留めビスSDF22（6×22）又はHJC19（6×19）を並列2本留め900mm間隔で取り付ける。

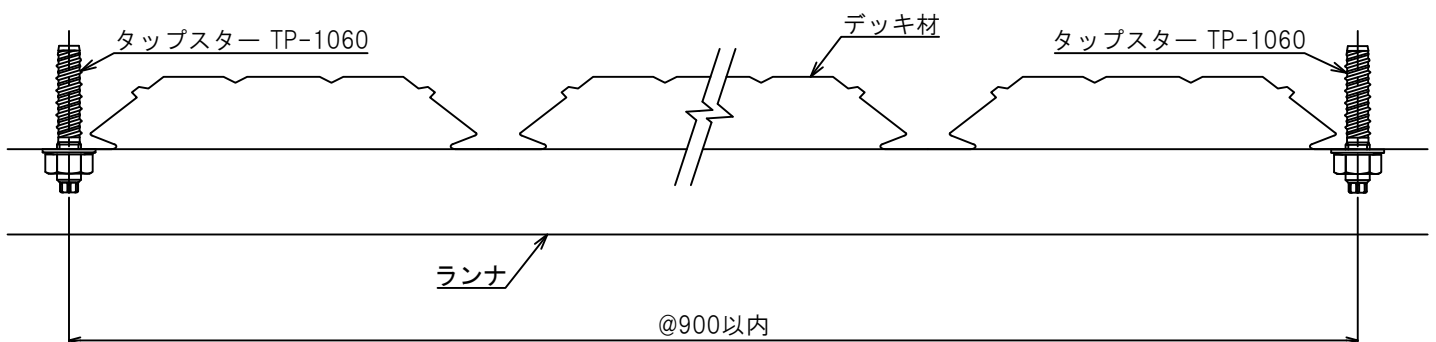
【デッキ材とランナが平行の場合】



ランナの取付方向がデッキ材と直交する場合は、デッキ材とランナを900mm間隔でタップスターTP-1060で固定する。

但し、別紙計算書でコンクリートピン又はビスの留付け間隔が提示されている場合は、その間隔で固定する。

【デッキ材とランナが直交する場合】



強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

躯体(コンクリート造等)とランナとの隙間が生じていない場合で

※h8000以下は

		上側のランナ
角型スタッド SLGB-100NFB (□100×45×1.2)	→	SWR-10012 (103×40×1.2×4000)
角型スタッド LGB-100NF (□100×45×1.0)	→	SWR-10010 (102×40×1.0×4000)
角型スタッド SKH-100NF (□100×45×0.8)	→	WR-100 (102×40×0.8×4000)
角型スタッド KH-100NF (□100×45×0.6)	→	WR-100 (102×40×0.8×4000)

下側のランナは全てWR-100(102x40x0.8x4000)を使用する。

※h8000以上は

		下側のランナ
角型スタッド SLGB-100NFB (□100×45×1.2)	→	SWR-10012 (103×40×1.2×4000)
角型スタッド LGB-100NF (□100×45×1.0)	→	SWR-10010 (102×40×1.0×4000)
角型スタッド SKH-100NF (□100×45×0.8)	→	WR-100 (102×40×0.8×4000)
角型スタッド KH-100NF (□100×45×0.6)	→	WR-100 (102×40×0.8×4000)

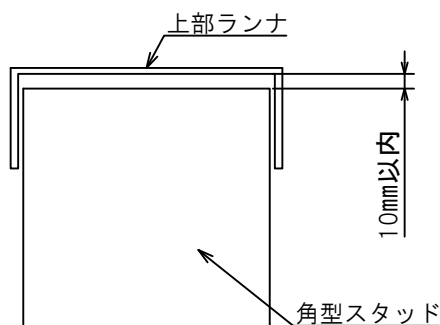
上側のランナは全てSWR-10016(104×50×1.6×4000)を使用する。

※基本仕様

角型スタッド	ランナ(スタッド8m以下)	ランナ(スタッド8m以上)	振れ止め	ランナ寸法
SLGB-100NFB (□100×45×1.2)	上:SWR-10012(t=1.2) 下:WR-100(JIS)	上:SWR-10016(t=1.6) 下:SWR-10012(t=1.2)	8m以上:CC-25(JIS材) 8m以下:CC-19(JIS材)	SWR-10016(t=1.6) ([104×50×1.6])
LGB-100NF (□100×45×1.0)	上:SWR-10010(t=1.0) 下:WR-100(JIS)	上:SWR-10016(t=1.6) 下:SWR-10010(t=1.0)		SWR-10012(t=1.2) ([103×40×1.2])
SKH-100NF (□100×45×0.8)	上:WR-100(JIS) 下:WR-100(JIS)	上:SWR-10016(t=1.6) 下:WR-100(JIS)		SWR-10010(t=1.0) ([102×40×1.0])
KH-100NF (□100×45×0.6)				WR-100(JIS) ([102×40×0.8])

②角型スタッドの建て込み

床面の高さが変化しているため、レーザー測長器で高さをこまめに正確に測り、常に角型スタッドと上部ランナの掛りが30mm以上(SWR-10016の場合は40mm以上)になるように角型スタッド上端を切断する。片方のランナの立ち上がり部分を押し広げながら、所定の間隔に角型スタッドを上下ランナに差し込む。



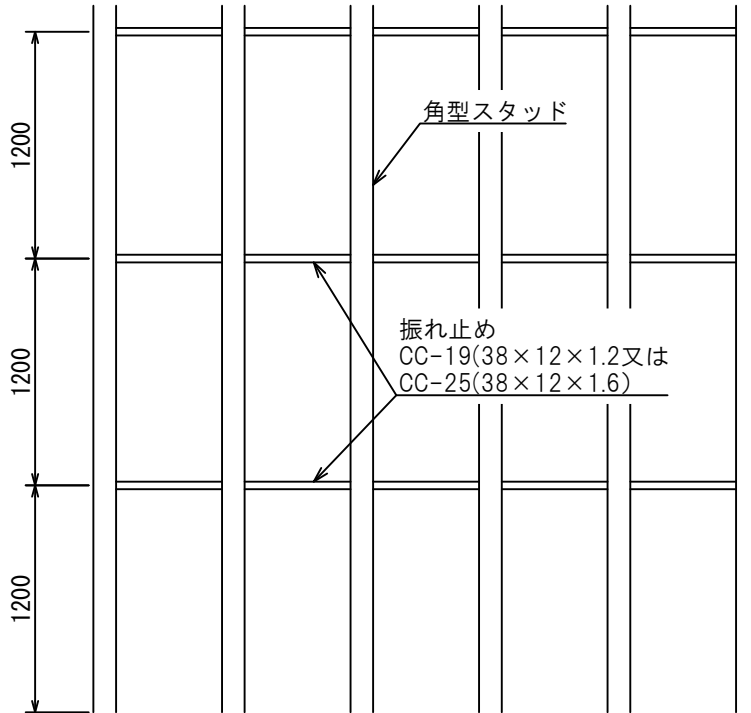
強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

③振れ止めの取り付け

振れ止めは、CC-19 (h=8000以下) 又はCC-25 (h=8000以上) を使用する。

振れ止めは、床面ランナ下端から1200mm毎に設ける。

ただし、上部ランナから400mm以内に位置する振れ止めは省略することが出来る。



振れ止めの固定方法はNF型（とびら式）とNFB型（ストッパーL金具留め式）がある。

NF型（とびら式）は板厚が0.6mm～1.0mmの角型スタッドに適用され、振れ止めをきっちりはめ込んだ後、とびら部分を元の水平状態に戻すことによって振れ止めが完全に固定される。

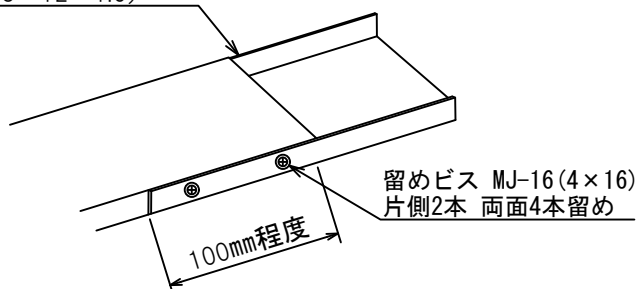
NFB型（ストッパーL金具留め式）は板厚が1.2mmの角型スタッドのみに適用され、振れ止めをきっちりはめ込んだ後、ストッパーL金具を取り付けて振れ止めを完全に固定させる。（片方のみ取付）

振れ止めのジョイント部は10cm以上抱き合せて、留めビスMJ-16(4×16)でしっかりと固定する。

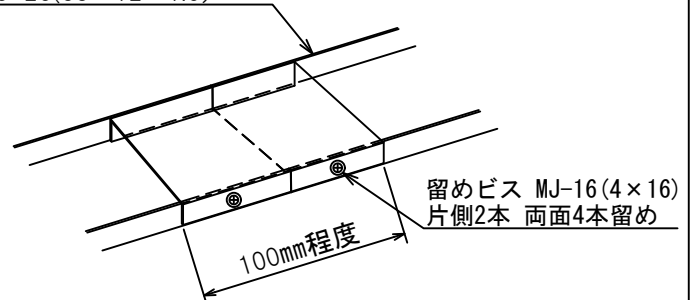
もしくは

振れ止めのジョイント部は突き合わせ後、同材の端材を10cm以上被せて留めビスMJ-16(4×16)でしっかりと固定する。

振れ止め
CC-19(38×12×1.2) 又は
CC-25(38×12×1.6)



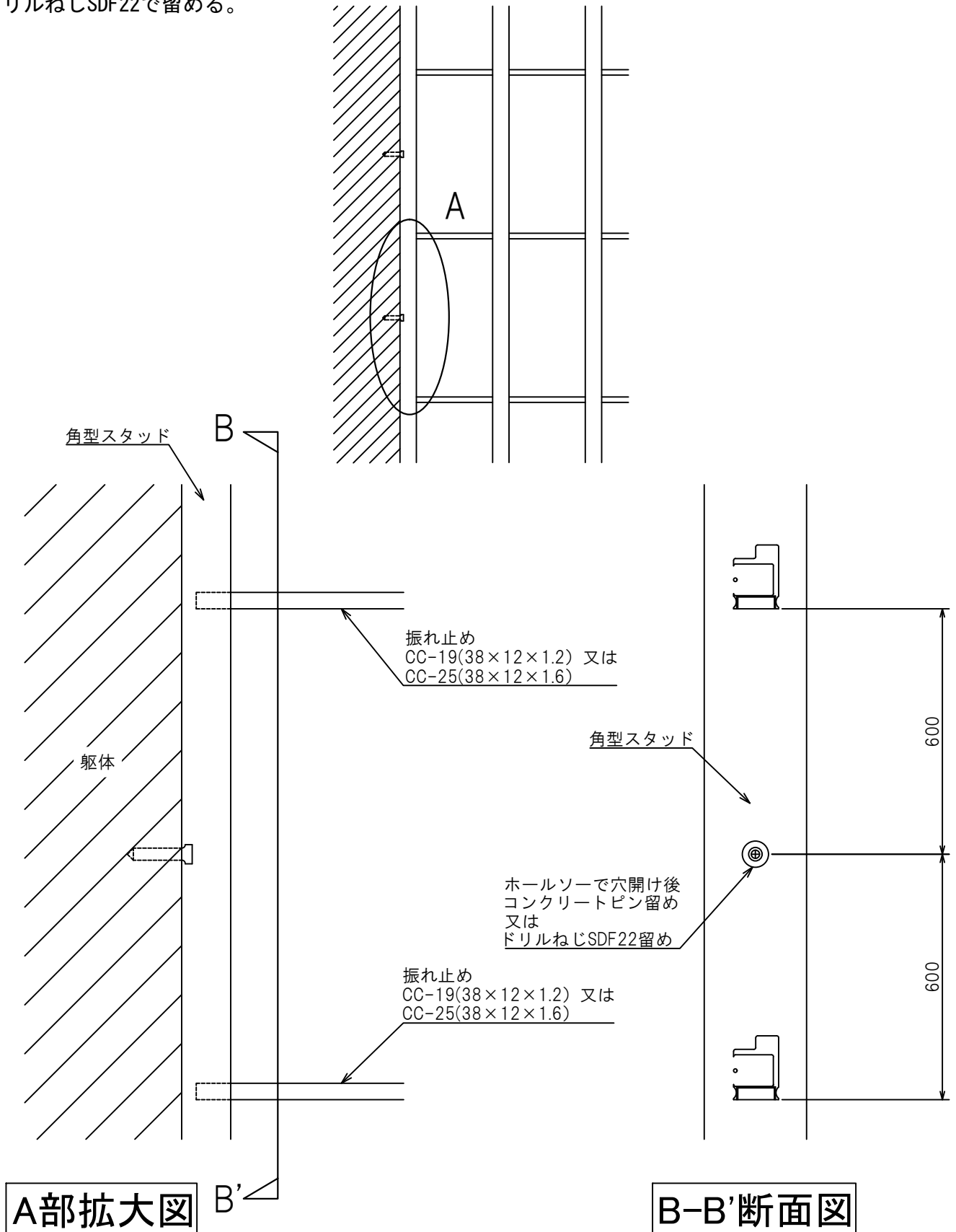
振れ止め
CC-19(38×12×1.2) 又は
CC-25(38×12×1.6)



強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

④端部角型スタッドを躯体へ固定

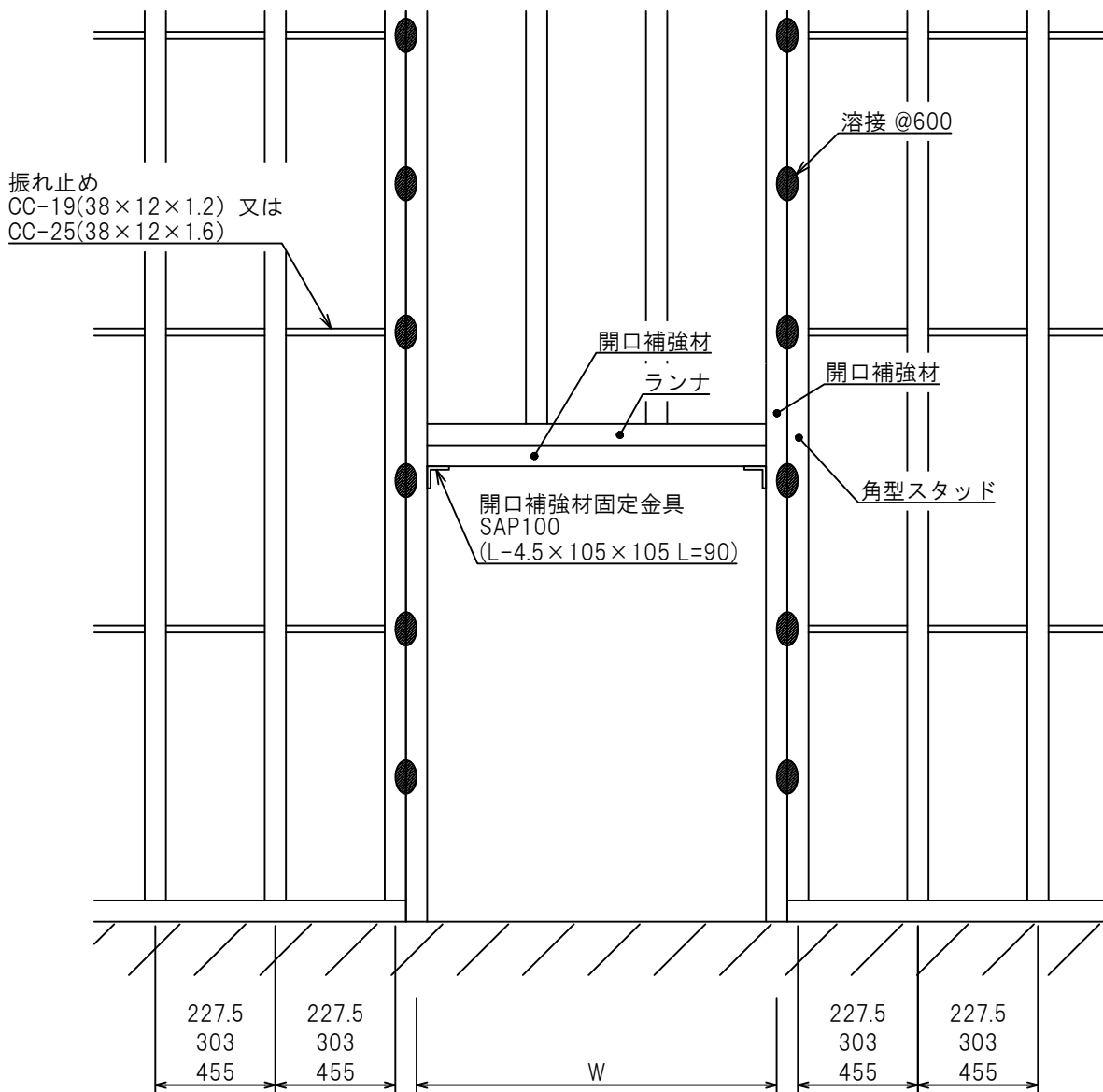
躯体に接する角型スタッドの下部から600mm それ以降1200mm毎にホールソーで穴を開けてコンクリートピン
又はドリルねじSDF22で留める。



強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

⑤開口部の角型スタッドの固定

開口部に接する角型スタッドは下図のように@600で両面に溶接して開口補強材に固定する。



開口補強材に接する角型スタッドの下部から600mm、それ以降1200mm毎にホールソーで穴を開けてコンクリートピン又はドリルねじSDF22で留める方法でも固定可能。

⑥石膏ボードメーカーの認定条件に従って施工してください。

— 以上 —